

〈お詫び〉 第91巻11月号 EUREKA「原始星エンベロープの構造と進化の観測的研究」(百瀬宗武・著)の図の掲載に誤りがありました。これは月報編集部での校正ミスで、著者には一切責任がありません。原因は2色刷りにおいて、青刷り原稿を別の図の上に重ねたために生じたものです。すぐに気づかないような仕上がりになっていたとはいえ、校正には細心の注意を払うべきでした。今後、このようなミスが起きないように注意していく所存です。ここにご迷惑をお掛けしたことを、著者並びに読者の皆様に深くお詫びするとともに、正しい図を再掲させていただきます。540ページの図に貼り変えて下さいますようお願い致します。
(天文月報編集長 末松)

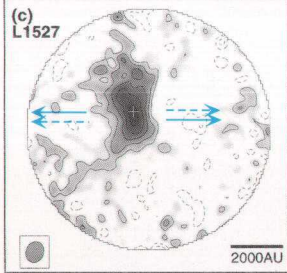
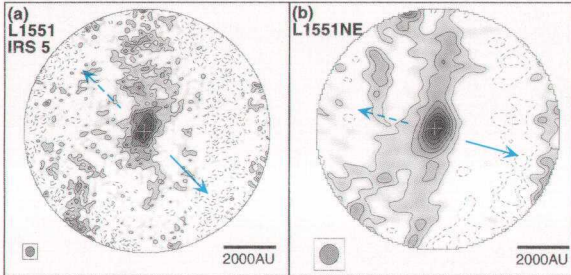


図3 NMAによって得られた原始星候補天体周囲でのC¹⁸O (1-0) 積分強度図。青の矢印は双極分子流の向き(点線が青方偏移成分, 実線が赤方偏移成分)。十字は星の位置を表す。左下の楕円は各観測のビーム。NMA素子アンテナの主ビーム応答を補正してある。出典:(a) Momose et al. 1998, (b) 百瀬(博士論文), (c) Ohashi et al. 1997.

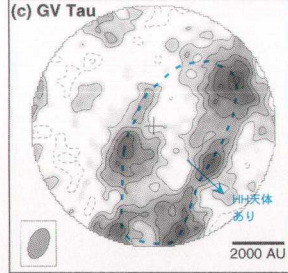
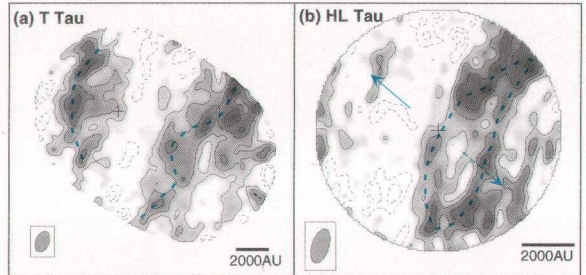


図4 NMAによって得られたフラットスペクトルTタウリ型星周囲でのC¹⁸O (1-0) 積分強度図。青の矢印は双極分子流の向き(点線が青方偏移成分, 実線が赤方偏移成分)。十字は星の位置を表す。左下の楕円は各観測のビーム。NMA素子アンテナの主ビーム応答を補正してある。青の破線はローカル・ピークをつないだもの。出典:(a-c) 百瀬(博士論文)。